

第8回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和3年2月24日(水) 午前9時30分～午前11時50分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、荒木委員、石川委員、松村委員、山崎省委員、倉西委員
藤田委員、平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員、飯沼委員
黒木委員、山崎留委員、岩井委員
※オンライン参加者 加茂委員
(現地15名、オンライン1名、計16名)
※欠席委員 菊地委員、柿崎委員、吉本委員、林委員 (計4名)
<事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長
川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長
藤野財政課長、関澤企画振興課長、入交企画振興係長
<受託事業者>フラノデザイン(株) 中村、大曾根

1. 開会(午前9時30分)

- ・事務局より、欠席者、オンライン参加者について報告

2. 市長挨拶

- ・有識者会議も8回目となり、長期に渡り、真剣な議論、建設的な意見を頂いたことに御礼を申し上げます。
- ・庁内議論の中で満足度が話題となったが、満足度はそれぞれの感性に頼るところが大きくなっていますが、今後、総合計画を進めていく中では、共創の取組を市民とどう創り上げていくか、成熟度をどう高めていくか、が必要となってきます。
- ・今日は、これまでの議論の確認作業となりますがよろしくお願い致します。

3. 報告事項

- ※事務局より、総合計画前期基本計画素案パブリックコメント実施結果について報告

【荒木委員】

- ・パブリックコメント実施結果を意見提出した方に回答したのか。

【関澤企画振興課長】

- ・パブリックコメント実施結果は、個別に回答するものではなく、市ホームページ等で公表している。

【荒木委員】

- ・将来人口推計に対しては、具体的に何に取り組むのかを説明する必要があるのではないか。
- ・人口推計と違った場合、積極的に人口推計に戻す施策に取り組む理解でよろしいか。

【関澤企画振興課長】

- ・人口ビジョンは、総合計画期間である今後10年間、各施策に取り組みながら、結果として人口がどうなっているかを想定するものである。
- ・有識者会議で効果の検証をする中で、総合計画の見直しを行うこととなるので、各施策についてもご意見を頂きながら進めることになる。

【黒木委員】

- ・パブリックコメント実施結果は、個別にどこかで取り扱われるものになるのか。

【関澤企画振興課長】

- ・パブリックコメント手続きは、今回の総合計画策定にあたって頂いた意見であり、計画に反映できるものは反映していくことになる。個別に協議するものにはならない。

- ※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

4. 議題

【北会長】

- ・議事に移りますが、有識者会議は、フラノデザイン株式会社にコーディネートをお願いしておりますので、よろしくお願いします。

(1) 第6次富良野市総合計画前期基本計画について

◆前期基本計画（素案）

※資料により前回からの修正・追加等をフラノデザインより説明。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・素案の修正・追加等について、ご意見等があればお願いします。

【黒木委員】

- ・重点施策“新たなチャレンジを応援する”のKPI「新規就農者数」は、新規参入者や農業後継者を含めた数値か。

【川上経済部長】

- ・新規参入者や農業後継者を含めた数値である。

【黒木委員】

- ・農業後継者を含めているのであれば、農村地域の維持を考えると、もっと高い目標でもいいのではないかと考える。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・「新規就農者数」の定義の記載について検討します。

【遠藤委員】

- ・重点施策“富良野ならではの子育て環境づくり”のKPI「通園センター待機児童数」で待機児童が出ている要因は何か。また解消する方法は何か。

【亀淵教育部長】

- ・待機児童数は指導者よりもキャパの問題が大きい。年度当初は対応できているが、その後の検診等により指導を必要とする子どもが増えてくる状況である。
- ・指導の時間を工夫しながら対応している状況である。
- ・今後は新庁舎開庁にあわせ、通園センターを保健センター2階に設置する予定であり、キャパを広げ、待機児童を解消していく考えである。

【山崎留委員】

- ・へき地保育所では人数が少ない状況であり、合併や閉鎖が懸念される。市街地の子どもをへき地保育所に通わせることはできるのか。

【亀淵教育部長】

- ・へき地保育所の設置条例の中でエリアが指定されているが、市街地の子どもが通うことの現実性を含め検討したい。

【山崎留委員】

- ・重点施策“富良野ならではの子育て環境づくり”のKPI「子育て環境や支援への満足度」の目標がR6となっているのはなぜか。またR12の目標に記載がないのはなぜか。

【亀淵教育部長】

- ・富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画期間にあわせているため、R6の目標となっている。また、その後の目標は、子ども・子育て支援事業計画を見直す中で考えていくことになる。

【山崎留委員】

- ・重点施策“富良野ならではの子育て環境づくり”の主な施策「子育てに対する体制

及び支援を強化します」の“多世代同居などの促進”に違和感を感じる。地域内で子育てをするような表現にならないか。

【亀淵教育部長】

- ・住宅施策の中で多世代同居の支援があるが、近居は“など”という表現で多様な考え方を謳っている。

【岩井委員】

- ・重点施策“富良野ならではの子育て環境づくり”のめざす状態があるが、子どもの健康を食で支える考え方はあるか。

【亀淵教育部長】

- ・食育の観点で市内に栄養教諭2名配置し、各学校を訪問しながら食の大切さなどを教える取り組みをしている。
- ・学校給食のメニューも地元食材を優先にしながら取り組んでいる。地元の旬の食材を活用したメニューも月1回提供し、9月には地元食材を中心とした「ふるさと給食」を実施している。

【岩井委員】

- ・学校給食の地域自給率はどのくらいか。

【亀淵教育部長】

- ・お米は100%富良野産であり、時期的なものもあるが野菜も8割近い自給率となっている。

【岩井委員】

- ・子どもたちが美味しいと思う学校給食を提供してほしい。

【飯沼委員】

- ・重点施策“富良野ならではの子育て環境づくり”の主な施策「子育てに対する体制及び支援を強化します」とあるが、何らかの情報が知ったときに真摯に対応するようになってもらいたい。
- ・総合計画と個別計画の期間等がリンクするように、しっかり取り組んでほしい。

【松村委員】

- ・他市町村の総合計画を見る機会が多いが、今回の富良野市の総合計画は素晴らしいと感じる。ここがスタートラインでどう実現していくかが重要となる。
- ・今後の評価に際して「ほめる文化」みたいなものが必要と感じる。行政のダメ探しではなく、できなかった原因を一緒に考えたり、住民ができることを提案していくことが大事である。
- ・KPIで定量的な指標も必要だが、定性的な指標も大事である。今回、幸福度を検討していくとなっているが、全体の幸福度だけでなく、個別の項目の設定が重要と考える。
- ・人口減少により財源が厳しくなるので、住民自らがやって欲しいことの優先順位を考えなくてはならない。そのためには、行政の予算決算をわかりやすくする必要はある。
- ・総合計画策定においてフラノデザインの役割は非常に大きいと感じるので、計画の中に委託先を明記する必要がある。また、人口ビジョンにおいても道総研が調査分析の協力をしたので明記していただければと思う。

【岩井委員】

- ・行政の予算の使われた方が非常に見えづらいことが市民の不安、不満につながる。
- ・何にどれだけ使われたかをホームページなどで、見やすく、わかりやすく説明してほしい。
- ・市民が情報を取りに行かなくても、わかる状態が市民の安心、信頼につながっていくのではないか。
- ・市と市民との信頼関係がないと新たな提案にもつながっていかないのではないか。

【山崎留委員】

- ・市のホームページは見づらいので改善が必要である。
- ・行政ができないことも、市民や民間でできることもあるのではないかな。
- ・市役所に「何でも課」みたいなものを作って、市民の声を吸い上げてはどうか。

【フラノデザイン 大曽根】

- ・今回のプロジェクトチームで意識していたことで、“声を吸い上げる”だと行政に頼ってしまうことになるので、市と市民が“共に創る・共に動く”関係性ができていくと良いと思っています。

【山崎留委員】

- ・行政、市民、民間で上手く回せる仕組みがあると良いのではないかな。

【荒木委員】

- ・他市町村と違って、ユニークな総合計画になったと思う。
- ・今後の市民ワークショップを継続した中で、アイデアが取り入れられていくことが重要である。そのためにも、市民を広く巻き込んで市民ワークショップを開催し、関心や機運を高めていく必要がある。
- ・総合計画の指標に幸福度を入れたこと、「検討します」の表現が少なくなったことは素晴らしい。
- ・総合計画は行政の憲法なので強く推進して行って欲しいが、すべてのことができる訳ではないので、有識者会議の中で検証や見直しに関わっていきたい。
- ・人口ビジョンをもとに施策をつくっているが、人口減少にあわせた施設整備が必要であり、お互いの我慢も必要になってくる。
- ・次の社人研推計が出てきたときは、人口ビジョンや施策の見直しが必要であり、有識者会議での議論になるかと思う。
- ・パブリックコメント実施結果の中で“参考にします”とあるが、財源の中で明確にできないものは、きちんと伝える必要がある。
- ・住民参加の中でまちづくりを進めていかなければいけない時代なので、有識者会議や市民ワークショップを通して、行政との関わりを大きくしていく必要がある。

【吉中委員】

- ・フラノデザインが関わったことにより、行政用語が少なく、市民に寄り添った素晴らしい計画になったと感じる。
- ・総合計画策定の前提・大切な視点の中で、「安全な失敗を尊重する」とあるが、失敗の中から成功が生まれるので、チャレンジする土壌が重要である。
- ・パブリックコメント手続きの意見提出者が少ない状況が見受けられるので、市民の目を引き、参加してもらえる取組が必要である。
- ・農村地域は人が住まないと維持管理していくことができないので、地域コミュニティの取組や考え方を整理していく必要がある。

【倉西委員】

- ・すごく良い計画になったと感じているが、大事なのは計画を知ってもらい、関心を持ってもらうことが重要である。
- ・目標に向かって努力して頑張っていき、振り返りの中で見直しをきちんと行う必要がある。

【松村委員】

- ・今回の総合計画策定に際して、フラノデザインが素晴らしいこともあるが、プロジェクトチームの議論や市民ワークショップの意見反映など、市役所の中から変わったことも大きいと感じる。

【フラノデザイン 大曽根】

- ・色々な自治体に関わらせてもらっているが、変わりたくても変わらない状況を目にしており、富良野市が民間事業者に委託し、かなりの時間を掛けて一緒に取り組んできた中では、市役所の変化は感じています。市民も行政も変化していくことの過渡期にあると思いますので一緒に前に進んでいく時と感じています。

【荒木委員】

- ・行政予算の見える化はできると思うが、各種データを活用した富良野全体の見える化が必要ではないか。
- ・ライフステージ毎の公的支援等がわかりやすくまとめた冊子を作成し、人生の見える化を図ってはどうか。人生が見えることにより、満足度の向上にもつながるのではないか。

【岩井委員】

- ・総合計画の基本構想が10年間で、前期・中期・後期の基本計画があるが、検証のタイミングはどうなるのか。

【関澤企画振興課長】

- ・基本計画は前期・中期・後期のタイミングで見直すか、検証は有識者会議の中で毎年度実施することになる。

【岩井委員】

- ・重点施策“新たなチャレンジを応援する”で新規就農者の受入要件に夫婦だけでなく幅を持たせても良いのではないか。

【川上経済部長】

- ・新規就農者に関しては、夫婦だけでなく同性同士のパートナーも認めている。今後は第三者継承の検討もあるので、受入要件については検討していきたい。

◆冊子・概要版のデザイン

※スクリーンにてデザインイメージをフラノデザインより説明。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・冊子・概要版のデザインについて、ご感想ご意見等があればお願いします。

【山崎留委員】

- ・概要版の10年カレンダー、冊子にフラノデザインの関わりを記載することは良いと思う。
- ・提案・改善点を5つ
 - ①子どもが見てもわかるように「ふりがな」を入れたり、海外の人が見てもわかるように富良野をアルファベット表記にする。
 - ②フラノデザインが関わっているのでワクワドキドキ(ワクドキ)を表現する。
 - ③市に対する意見のフィードバックの方法を明記する。
 - ④富良野の風景写真を使用する際に、東山フォトコンテストの写真がある。
 - ⑤市外の方にも手に取ってもらえる場所に置いてはどうか。

【藤田委員】

- ・概要版の10年カレンダーが素晴らしいと思う。
- ・東川町で君の椅子プロジェクトを行っているが、生まれたときに君のカレンダーをプレゼントしてはどうか。

【岩井委員】

- ・総合計画の内容を見るときに自分事として見るので、自分に必要なページを検索できる仕組みがあると良いのではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・冊子の中で取り組めることは検討させていただきます。

【荒木委員】

- ・総合計画に限らず、市民や観光客の立場に立った情報提供を、デジタルの活用により進めていく必要がある。

【黒木委員】

- ・見やすさには、デザインやセンスが重要になってくると思うので、専門的な人材を

活用していく必要がある。

- ・市民の関心を高めるためには、子ども未来づくりフォーラムなど自分が関わったことが実現されるなど、小さい頃の成功体験が愛着にもつながるのではないかと。
- ・パブリックコメント手続きは、敷居が高い気がする。市の回答も“参考にします”だと次の意欲につながらないので回答の工夫が必要ではないかと。

【荒木委員】

- ・重点施策“デジタル利活用による行政サービスの向上”の主な施策「デジタル化による利用者の利便性を高めます」とあるが、利用者目線・利用者本位といった表現にしてはどうか。
- ・各種会議の委員に対し、パブリックコメントなどの意見に対する考えなどを問うことがあっても良いのではないかと。

【山崎留委員】

- ・旭川市の子育てガイドブックがライフステージ毎のインデックスが入っており参考になるのではないかと。
- ・パブリックコメント手続きに期間の定めがあるが、通年で意見を募集することはないのか。

【関澤企画振興課長】

- ・パブリックコメント手続きは、計画策定や条例制定など個別案件に対して意見を募集する制度となっているため、期間が定められている。
- ・市民からの要望等に関しては、「市民の声」など様々な機会を設け、通年で意見を受け付けている。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・冊子、概要版のデザインにつきましては、楽しみにお待ちしております。
- ・今後、委員皆様の身近なつながりのある範囲の中で、こうした取組の接着など一緒に進めて頂けたらと思います。

【北会長】

- ・本日の長時間にわたるご議論、ご検討ありがとうございました。

5. その他

- ・特になし

6. 閉会（午前11時50分）

【北会長】

- ・有識者会議も8回目を数え、今年度最後の会議となりましたが、良いところ探しのご発言を頂き、嬉しく思っております。来年度も良いところ探しの一年にしたいと考えております。
- ・総合計画の策定にあたっては、フラノデザインのご協力により進めてきましたが、策定の前段として“未来を人に聞くのはやめよう”“ナッジの考え方”などのお話がありました。委員皆様と一緒に未来を創り上げた計画になったと感じております。
- ・“ナッジの考え方”も見方を変えれば、親子のつながりにも見え、また、市民と行政が触れ合うことで距離を縮めることもできると思います。
- ・総合計画は作って終わりではなく、これを如何に実現していくかが重要となりますので、引き続きのご協力をお願い致します。